

法師のことば、おとこ女のことばげすの詞には、かならずもじあまりしたり、

〔枕草子十〕ことばなめげなる物

宮のめのさいもんよむ人舟こぐ物ども、かんなりのぢんの舍人すまひ、

〔海人藻芥〕内裏仙洞ニハ、一切ノ食物ニ異名ヲ付テ被召事也一向不存知者、當坐ニ迷惑スベキ者哉、飯ヲ供御、酒ハ九獻、餅ハカチン、味噌ハラムシ、葱ハウツホ等、如其異名ヲ被付、近比ハ將軍家ニモ女房達、皆異名ヲ申スト云々、

〔大上崩御名之事〕女房ことば

一一ひ 御だいぐご おなか だいりにはいひにかぎらず、そなふるものをくごといふ、  
一しる 御しるしるのしたりのみそをかうの水といふ、

一さい 御まいり 一さかな こんとも、御さかなとも○下略

〔平家物語八〕猫間の事

木曾よしなかは○中略たち居のふるまひの無骨さ、ものいひたること葉つべきのかたくちなる事かぎりなし○中略其ころねこまの中納言みつたかのきやうと云人有けり、木曾にの給ひ合すべき事有て、おはしたりけるを○中略木そねこま殿とはえいはで、ねこ殿の食時けどきに、まればれわいたに、物ようへとぞ云ける、中納言殿いかでか只今さる事のおはすべきとの給へ共木そ何をもあたらしき物をば、無鹽と云ぞと心えて、ぶゑんのひらだけこゝにあり、とうくくといそがす、中納言はあまりにがうしのいぶせさに、めさべりければ、木そきたなうな思ひ給ひそ、それは義仲がしやうじんがうして候ぞ、とうくくとす、むる間、中納言殿めさでもさすがあしかりなんとや思はれけん、はし取てめすよし、てさしをかれたりければ、木そ大きにわらつて、ねこ殿は小じきにておはすよ、聞ゆるねこおろしし給ひたり、かひ給へくやとぞせめたりける、